



お知らせ

《地域活動の再開》

『わたしたちの日常を取り戻すために』

～新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインを活用し、感染予防対策に取り組みながら～
秋号では、認知症カフェや健康づくり教室の再開を報告させていただきました。今号では、地域包括支援センター引野が主催または共催している事業の再開について、お伝えしていきます。

- ◎ケアマネサロン … 奇数月開催 13:50～14:50（時間変動有り）
8月から、介護支援専門員の皆さんを対象とした「ケアマネサロン」再開しました。毎回テーマを変え、講師を招き講座開催。サロンには、20～30名の参加があります。
- ◎介護予防サービス計画作成の考えかたを一緒に学ぶ、「まなぶくん」 13:50～14:50
要支援認定のかたが、サービス利用に必要なプラン作成のポイントを学習する。
- ◎事例検討会 … 地域の主任介護支援専門員の皆さまと、切磋琢磨 6～10名
- ◎地域ケア会議 … 個人の困りごとが、地域の皆さんの困りごとと重なっていないか？
課題か解決に向けた話し合いを1時間かけて行っております。
※3職種それぞれの専門性を発揮できるように、行事(活動)を組み立てていきます。

活動再開にはデメリットを伴いますが、続けて行くための手法を考えながら取り組みます

～ 職員紹介 ～

『はじめまして、介護支援専門員の川本 陽子と申します。包括支援センター引野で6月より働いています。周りの方々に助けていただきながらの半年間は、あっという間に過ぎていきました。これからの目標は、介護予防や自立に向けた気持ちに寄り添い、ご利用者様の生活をサポートできるように努めていきたいと思っております。今後とも、ご指導のほど宜しくお願いします。』



※HPも見て下さいね
『houkatsuhikino.rgr.jp』
『包括引野』で検索して下さい。



みんなで「共生社会」をつくるためにシリーズ⑦

性別や年齢、障がいの有無に関わらず誰もがお互いを理解し支え合える社会を「共生社会」といいます。人権や尊厳を大切に相互に敬いの気持ちを持って生活出来る…そんな毎日が実現したら本当に素晴らしいと思いませんか？このシリーズでは様々な人が分け隔てなく暮らしていける社会になるよう、みんなで一緒に考えていけたらと思っています。（今号では「セルフネグレクト」について記事にしてみました。）

【セルフネグレクトとは】

個人自身のニーズに対して発生するネグレクト行為(放棄・放任)であり、それには不適切な衛生、服飾、食事、医学的状況などが挙げられます。つまり生活環境や栄養状態が悪化しているのに、それを改善しようという気力を失い、周囲に助けを求めない状態を指します。日本ではセルフネグレクトに関する法的な定義や位置づけは確立していませんが、以下のような因子が当てはまることが多くあります。

- 不潔で悪臭のある身体…人並な見繕いをしない、トイレに行く意思が希薄
- 不衛生な住環境…ゴミを捨てない、ネズミや害虫を駆除しない
- 生命を脅かす治療やケアの放置…疾患の治療や服薬を中断・拒否する
- 奇異に見える生活状況…破れた服を着て外出するなど、周囲の価値観から見て奇異に見える状態
- 不適当な金銭・財産管理…日常的な買い物や、公共料金・家賃の決済など、自分の財産管理が適切にできない状態
- 地域の中での孤立…近隣住民との関わりを拒否する、家に引きこもるなどの社会的孤立



【なぜ、セルフネグレクトに陥るの？】

セルフネグレクトの陥りやすい危険因子として、脳障害や認知症等の疾患が挙げられます。その他に、精神障がい等の心理的問題、他人の世話になることを嫌って避ける、社会とのつながりが無くなり人間関係が希薄化する等があげられます。

【地域で暮らしていくために】

セルフネグレクトに至るまでの経緯は様々であり、高齢者のみになるものとは限りません。誰もが陥ってしまう可能性があります。そんな中でも普段から社会とのつながりを意識しておくことが非常に大切です。よく見かけていた人を最近は見かけなくなった。身なりが明らかに不衛生。新聞が溜まっている等を意識しておくことで、周囲が早く異変に気付くことができるかもしれません。お互いが支えあい、住み慣れた地域での生活を続けるためにも少し意識してみることも良いかもしれません。

